

(公財) 福島県文化振興財団設立50周年記念事業
読み直すふくしまの歴史講演会

令和2年11月29日

ふくしまの弥生時代の石器

—特に浜通り地方を焦点として—

遺跡調査部 吉田 秀享

目次

- ▶ 最初の遺跡調査
- ▶ ショッキングだった研究報告
- ▶ 東北地方南部での弥生時代石器の不思議
- ▶ II様式期の石器(いわき市龍門寺遺跡・相馬市柴迫A遺跡)
- ▶ なぜII様式期に大陸系磨製石器が確認できるのか？
- ▶ その後の石器(IV様式期の石器)
- ▶ おわりに その1 石包丁製作の道具
- ▶ おわりに その2 鉄器化の波とふくしまの特徴

弥生時代の時期区分（開始年代の概念）

西暦	本編の年代観 (九州大学の見解)	国立歴史民俗 博物館の見解	中国
1000	縄文時代	後期	殷
		晩期	1072
		早期	西周
		770	
500	弥生時代	前期	春秋
		403	
		中期	戦国
		221	
紀元前 紀元後	弥生時代	後期 (V様式)	202 前漢
		中期 (II・III・IV様式)	8
		前期 (I様式)	25 後漢
		早期	222 三国
300			

最初の遺跡調査



昭和59年(1984年)10月
新地町武井A遺跡

弥生時代中期後半桜井式期の
集落跡。硬質砂岩製石包丁と、
石英粗面岩(流紋岩)製の
アメリカ式石鏃出土。

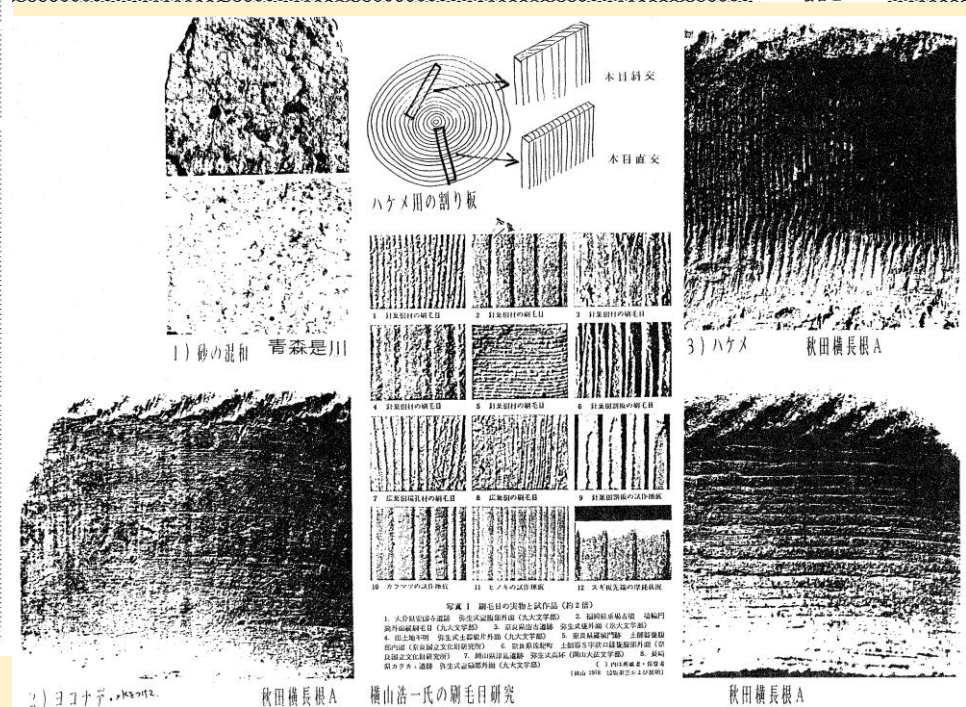
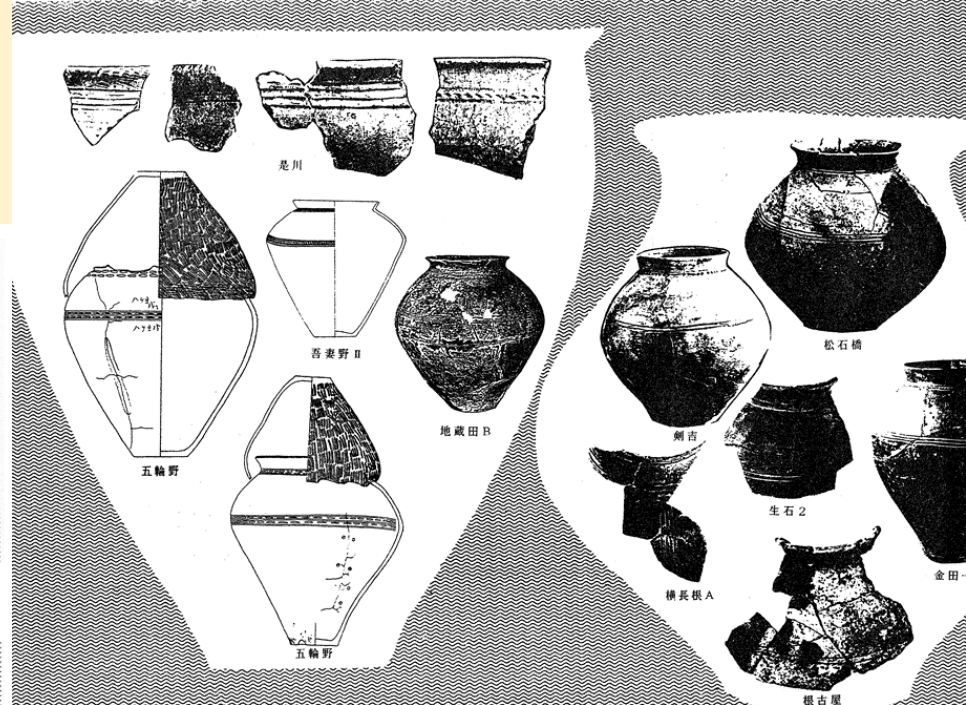


新地町武井A遺跡(上・左下)と武井地区出土弥生時代石器(右下)

ショットニングだった研究報告(その1)



1986年10月18日
日本考古学協会昭和61年度大会
(於：青森県八戸市)
基調講演「縄文／弥生」佐原 眞
資 料



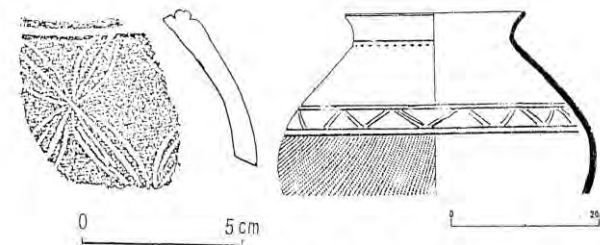
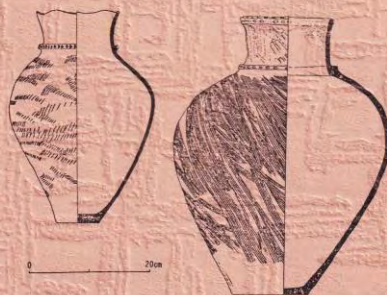
遠賀川系土器の既報告

昭和57(1982)年 刊行の
私家本

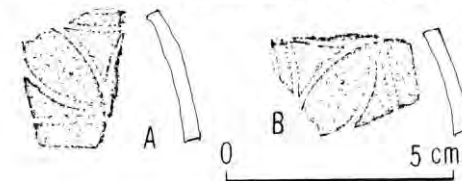
佐原氏発表の4年前に、すでに
福島県内出土の最古の弥生土
器が畿内第Ⅰ様式中段階後半
に並行することを明確に示した
論文。

畿内第Ⅰ様式に並行する 東日本の土器

中 村 五 郎



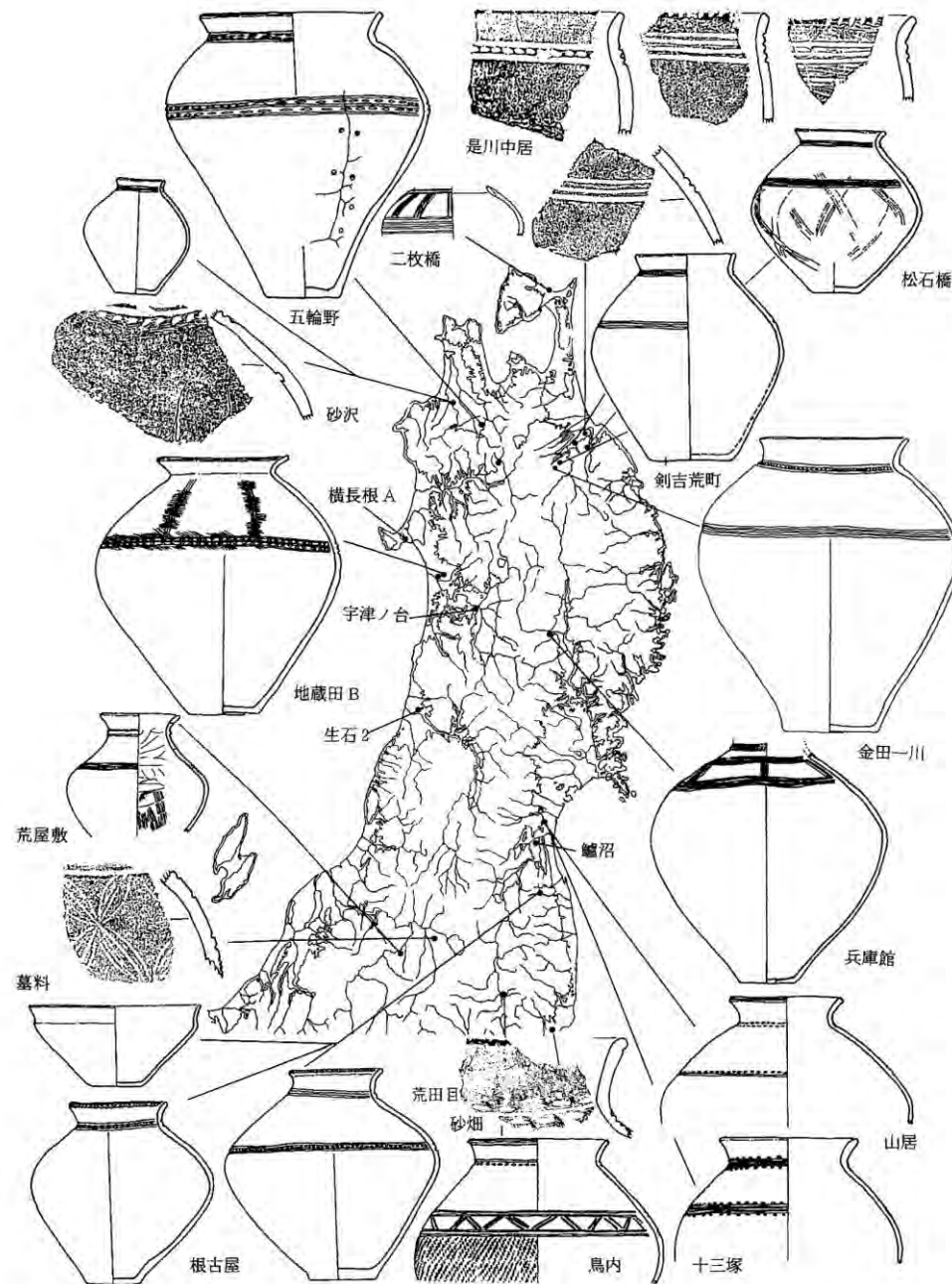
畿内第Ⅰ様式と関係する土器 墓料(左)・
鳥内(右・目黒氏報文より)の資料



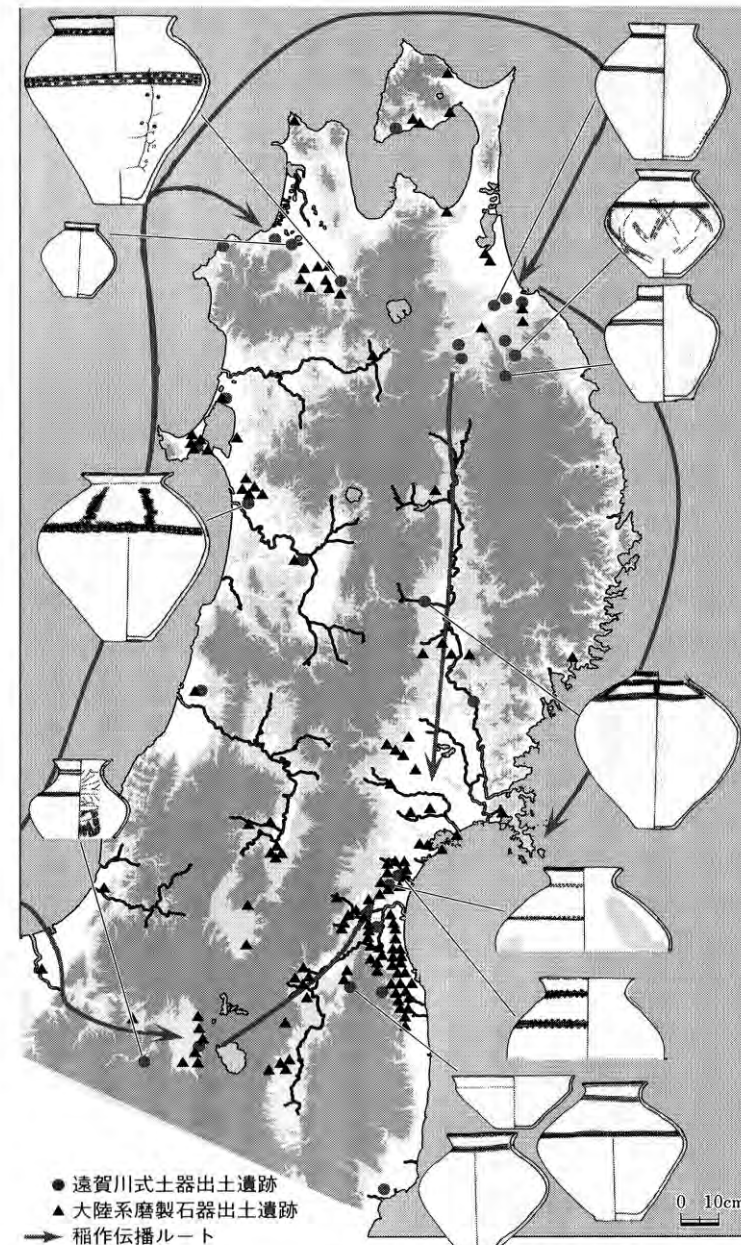
根古屋遺跡の木葉文土器

遠賀川系土器の その後の研究

平成10(1998)年時点の
東北地方での遠賀川系
土器の出土遺跡(左)
と、その伝播ルート
を類推した図(右)



1998 須藤 隆『東北日本先史時代文化変化・社会変動の研究—縄文から弥生へ—』より転載



東北への弥生文化の流入

2020 近江俊秀「海から読み解く日本古代史
太平洋の海上交通」より転載

ショツキングだった 研究報告(その2)

平成4(1992)年に開催
された 通称“九阪”
(九州と畿内の研究者を
主とする研究集会)での、
大陸系磨製石器等の
確認時期を示した図

弥生時代石器類消長表

地域	北 部 九 州											
種類	大陸系磨製石斧				収 穫 具			伐採具		その他		
様式	太型石斧	刃状石片	柱状石片	扁平石片	石包丁	石鎌	鉄鎌	板状斧	袋状斧	両刃石斧		
凸帯文	≡			≡	≡							
I	≡	≡		≡					≡			
II	≡	≡		≡					≡			
III	≡			≡					≡			
IV									≡			
V									≡			

地域	中 部 (長 野)											
種類	大陸系磨製石斧				収 穫 具			伐採具		その他		
様式	太型石斧	刃状石片	柱状石片	扁平石片	石包丁	石鎌	鉄鎌	板状斧	袋状斧	両刃石斧		
凸帯文												
I												
II												
III												
IV												
V												

地域	東 北 南 部 (太 平 洋 岸)											
種類	大陸系磨製石斧				収 穫 具			伐採具		その他		
様式	太型石斧	刃状石片	柱状石片	扁平石片	石包丁	石鎌	鉄鎌	板状斧	袋状斧	両刃石斧		
凸帯文												
I												
II												
III												
IV												
V												

地域	近 畿											
種類	大陸系磨製石斧				収 穫 具			伐採具		その他		
様式	太型石斧	刃状石片	柱状石片	扁平石片	石包丁	石鎌	鉄鎌	板状斧	袋状斧	両刃石斧		
凸帯文	≡				≡	≡						
I	≡	≡	≡		≡	≡						
II	≡	≡	≡									
III	≡	≡	≡									
IV	≡	≡	≡									
V	≡	≡	≡									

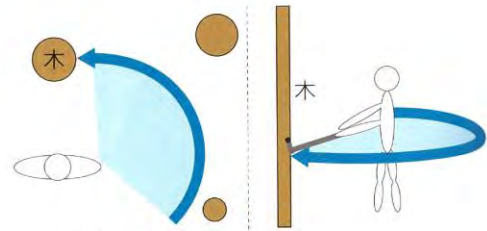
地域	関 東											
種類	大陸系磨製石斧				収 穫 具			伐採具		その他		
様式	太型石斧	刃状石片	柱状石片	扁平石片	石包丁	石鎌	鉄鎌	板状斧	袋状斧	両刃石斧		
凸帯文												
I												
II												
III												
IV												
V												

1992 第31回埋蔵文化財研究集会「弥生時代の石器—その始まりと終わり—」
埋蔵文化財研究会関西世話人会 発表要旨から作成

縄文時代の石斧(左)と弥生時代の石斧(右)



4 縦斧(鳥浜型石斧)復元品
原品：縄文時代前期
木の又を利用した柄(膝柄)に、石斧の刃を縦方向に装着する。石斧は、ソケット状に加工された柄にはめ込まれ、紐で固定される。長76cm・幅35cm。



5 縦斧による伐採
立木の密度が低い森では、横方向に振る縦斧による伐採が効率的である。縦斧を使用すると横方向に切り込むことができるため、横斧と比較して狭い切り口と、少ない作業量で伐採することができるからである。



6 縦斧(桜町型石斧)復元品
原品：縄文時代中期
木の又を利用した柄(膝柄)に、石斧の刃を縦方向に装着する。石斧は、柄の先端に当てて具を当てて紐で縛って固定される。長75cm・幅31cm。



①



②



③

7 縦斧の装着法
①は鳥浜型石斧、②・③は桜町型石斧の装着法。柄をソケット状にして石斧をはめ込む鳥浜型は、装着部分が滑れやすく耐久性が低かった。一方、当て具を用いて石斧を紐で縛って固定する桜町型は、装着部が壊れにくく耐久性が向上したようである。



8 太形蛤刃石斧
出雲市矢野遺跡／弥生時代
①長16.5cm・幅6.5cm、②長17.4cm・幅5.4cm。



①

②

10 柱状片刃石斧
松江市西川津遺跡／弥生時代
①長15.5cm・幅3cm、②長13cm・幅3.5cm。



①

②

③

12 扁平片刃石斧
出雲市矢野遺跡／弥生時代
①長10.5cm・幅1cm、②長8.9cm・幅2.6cm+、③長6.7cm・幅2.5cm。



9 太形蛤刃石斧復元品
原品：弥生時代
立木の伐採用に用いられたもの。柄に孔を空けて装着する。



11 柱状片刃石斧復元品
原品：弥生時代
木材の表面を平らにする際、粗く仕上げるのに使われたもの。上面の溝に紐を架けて縛り柄に固定した。



13 扁平片刃石斧復元品
原品：弥生時代
木材の表面の仕上げや、細かな成形などに使われたもの。刃幅に違いがあり、作業に応じた使い分けが考えられる。

現在東北地方で確認されている靫痕等と水田跡

表 2-3 仙台平野中部・いわき地域・弘前平野南部の弥生水田

	仙台平野中部：名取川下流域	いわき地域：夏井川下流沖積平野	弘前平野東部：浅瀬石川流域
I 期			
II 期	富沢：13b 層水田跡（IIB 類） 富沢：99 次 14 層水田跡（IIB 類）	戸田条里：XIII 層水田跡（III 類）	
III 期	富沢：15 次 11a 層水田跡（IIB 類） 郡山：65 次 9 層水田跡（IIB 類） 長町駅東：IV 区 Va 層水田跡（IIB 類） 高田 B：7 層水田跡（IIB 類） 杓形：6a1 層水田跡（IIB 類）		垂柳：VIa 層水田跡（IIB 類） 高樋(3)：VIa 層水田跡（IIB 類） 前川：C1-VII 層水田跡（IIB 類）
IV 期	富沢：15 次 9a 層水田跡（IIB 類）	番匠地：VIII 層水田跡（IIB 類） 中山館：I 区 12 層水田跡（IIB 類）	
V 期	富沢：24 次 X 層水田跡（IIB 類） 山口：10 次 8 層水田跡（IIB 類） 後河原：1 次 VIIa 層水田跡（IA 類）		

※水田跡の構造は、開田地の設定方法である成立基盤と水田区画の方法である水田形態の各属性の相関から類型化されており、成立基盤はⅠ類：緩傾斜面（勾配1%前後以上）、Ⅱ類：ほぼ平坦な地形面（勾配1%前後以下）、Ⅲ類：旧河道や谷状の地形面、水田形態は、A：水田区画が地形面の勾配に合わせて行なわれているもの、B：水田区画の主たる要因が地形面の勾配とは異なり小区画を指向するものに分けられる。

※仙台平野中部では、富沢遺跡でⅡ期以前の15次13b層水田跡を最古として、Ⅴ期まで8時期以上の水田跡が検出されている。また、北目城跡でⅢ～Ⅴ期の水田跡、元袋遺跡で弥生時代の水田跡が検出されている。

※他の地域では、北部南半域弘前平野北部で砂沢遺跡8層水田跡（Ⅰ期：ⅠA類）、南部北東域相双地域北部で岩下A遺跡Ⅳ層水田跡（Ⅱ期：ⅠA類）、南部南西域台畑遺跡Ⅶ層水田跡（Ⅲ期：ⅡB類）がある。

2015 斎野裕彦「農耕社会の変容」『倭国の形成と東北』より転載

表 1-2 レプリカ法による調査成果一覧 [高瀬(2012b)より]

都道府県	遺 跡	時 期	検討対象土器数	レプリカの電子顕微鏡観察を実施した圧痕数	圧痕の由来物質
北海道	札幌市 N30	縄文晩期後葉	111 個体	2	不明 2
	札幌市 H37 (丘珠空港地点)	縄文前期 (砂沢式並行)	71 個体	8	巻貝 1 不明 7
	札幌市 H317	縄文前期 (二枚橋古段並行)	36 個体	3	不明 3
	札幌市 H37 (栄町地点)	縄文前期 (二枚橋新段並行)	2 個体	0	—
青森県	三沢市備又 (2)	縄文中期末～後期初頭	1(破片数、整理中発見の圧痕のため実際の母数はさらに多い)	1	不明 1
	三沢市根井沼 (3)	縄文後期後葉	3(破片数、整理中発見の圧痕のため実際の母数はさらに多い)	3	不明 3
	三沢市天狗森貝塚	弥生前期後葉	1(破片数、整理中発見の圧痕のため実際の母数はさらに多い)	1	イネ 1
	田舎館村垂柳	弥生中期中葉	8 個体(整理中に圧痕が発見されたもののみ対象としているため、実際の母数はさらに多い)	27	イネ 11 不明 16
岩手県	奥州市兜 II	弥生中期	1 個体(整理中に圧痕が発見されたもののみ対象としているため、実際の母数はさらに多い)	1	イネ 1
	滝沢村湯舟沢	弥生中期～後期	6 個体(整理中に圧痕が発見されたもののみ対象としているため、実際の母数はさらに多い)	9	不明 9
秋田県	秋田市地藏田	弥生前期後葉	2(破片数、整理中発見の圧痕のため実際の母数はさらに多い)	2	イネ 1 不明 1
	男鹿市横長根 A	弥生中期前葉	7 個体(整理中に圧痕が発見されたもののみ対象としているため、実際の母数はさらに多い)	8	イネ 4 不明 4
	男鹿市三十刈 I	弥生中期後葉	1 個体(整理中に圧痕が発見されたもののみ対象としているため、実際の母数はさらに多い)	6	イネ 4 不明 2
	三種町家の上	弥生中期中～後葉	2 個体(整理中に圧痕が発見されたもののみ対象としているため、実際の母数はさらに多い)	4	イネ 2 不明 2
宮城県	栗原市山王田	縄文晩期後葉～弥生中期	39340(破片数、一部サンプル抽出による推定数)	14	不明 14
	名取市表前	弥生中期後葉		1	イネ 1
	岩沼市杉の内	弥生中期		1	イネ 1
山形県	山形市北柳 1	縄文晩期後葉	334(破片数)	3	不明 3
	酒田市生石 2	弥生前期後葉	39 個体(整理中に圧痕が発見されたもののみ対象としているため、実際の母数はさらに多い)	25	イネ 14 不明 11
福島県	会津若松市南俣山	弥生中期中葉	1 個体(整理中に圧痕が発見されたもののみ対象としているため、実際の母数はさらに多い)	1	イネ 1

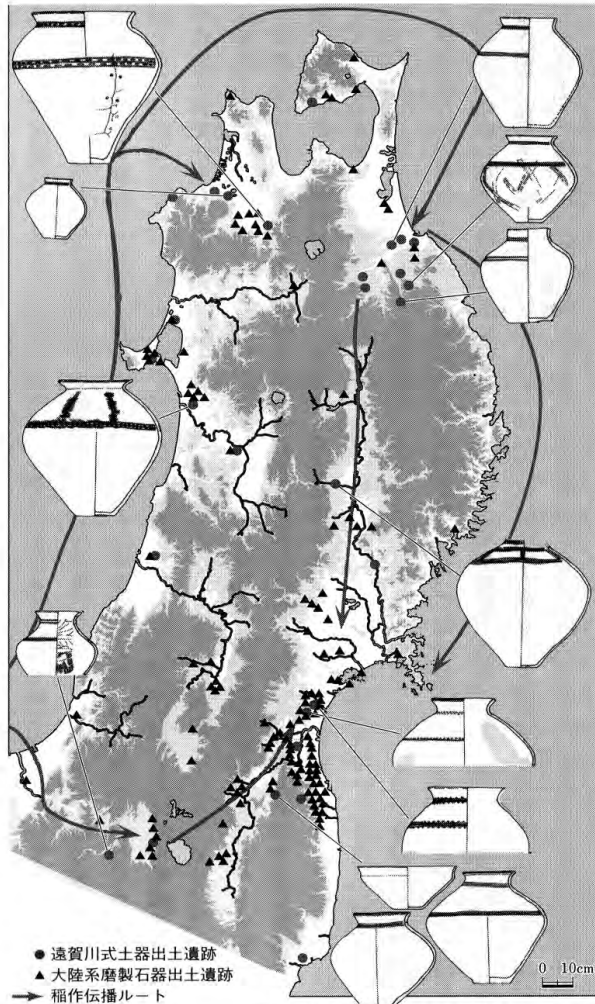
2015 高瀬克範「稲作農耕の受容と農耕文化の形成」

『倭国の形成と東北』より転載

東北地方南部での弥生時代石器の不思議

西からの伝播

- ①遠賀川系土器…弥生時代の幕開け。種籾を入れた？
- ②弥生時代にみられる石器…いわゆる大陸系磨製石器



● 遠賀川系土器出土遺跡
▲ 大陸系磨製石器出土遺跡
→ 稲作伝播ルート

東北への弥生文化の流入

2020 近江俊秀「海から読み解く日本古代史
太平洋の海上交通」より転載

遠賀川系土器が確認できる遺跡と、
大陸系磨製石器、特に石包丁が
確認できる遺跡の分布ギャップ

大陸系磨製石器等が
中部・関東地方より先に
東北地方南部の太平洋岸
で確認できる不思議

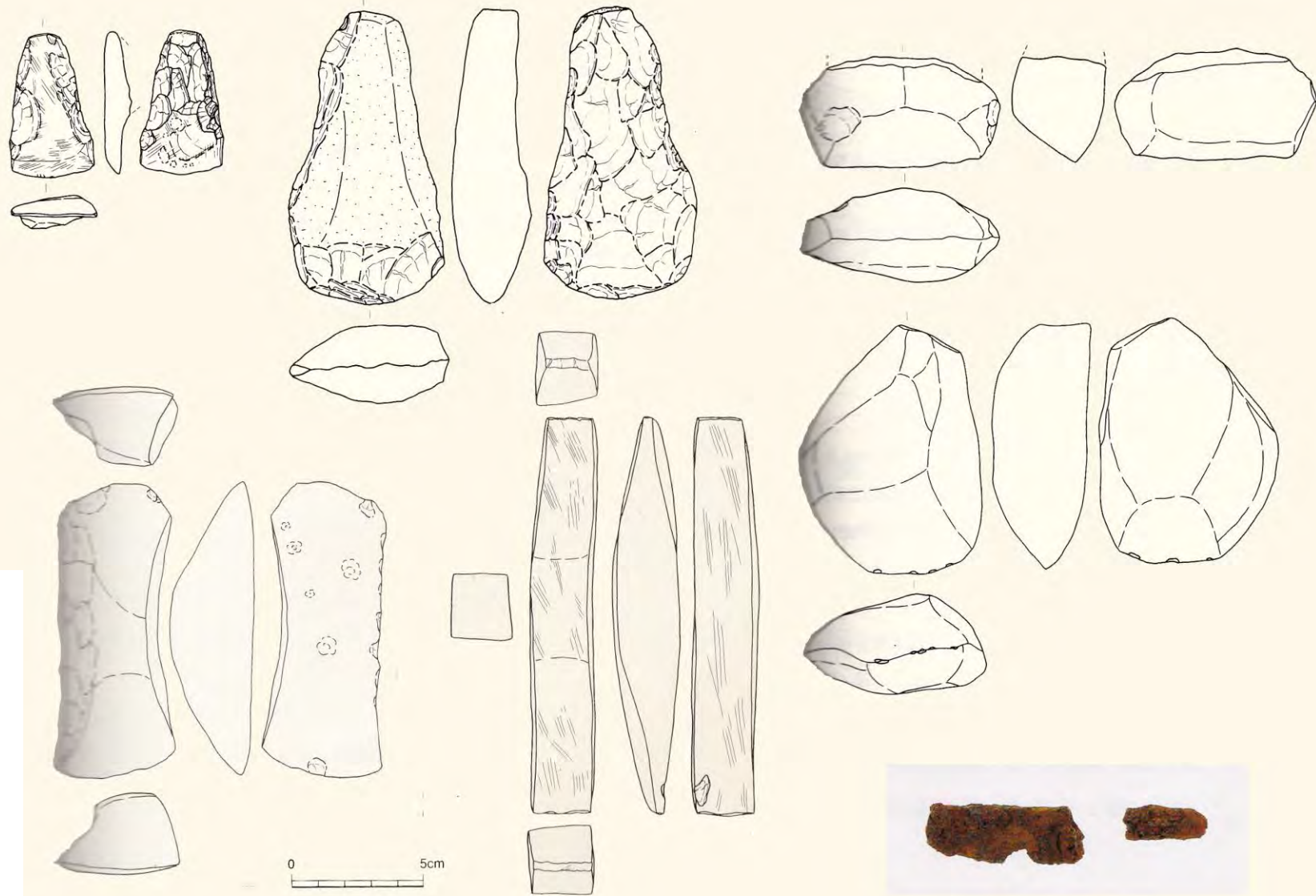
地域	中部(長野)									
種類	大陸系磨製石器				収穫具		伐採具		その他	
様式	太刃石斧	柱状石斧	扁石斧	ノミ形斧	石包丁	石鎌	鉄鎌	板状斧	袋状斧	両石斧
凸帯文										
I										
II										
III										
IV										
V										

地域	東北南部(太平洋岸)									
種類	大陸系磨製石器				収穫具		伐採具		その他	
様式	太刃石斧	柱状石斧	扁石斧	ノミ形斧	石包丁	石鎌	鉄鎌	板状斧	袋状斧	両石斧
凸帯文										
I										
II										
III										
IV										
V										

地域	関東									
種類	大陸系磨製石器				収穫具		伐採具		その他	
様式	太刃石斧	柱状石斧	扁石斧	ノミ形斧	石包丁	石鎌	鉄鎌	板状斧	袋状斧	両石斧
凸帯文										
I										
II										
III										
IV										
V										

1992 第31回埋蔵文化財研究集会「弥生時代の石器—その始まりと終わり—」
埋蔵文化財研究会関西世話人会 発表要旨から作成

I 様式期の石器(須賀川市松ヶ作A遺跡)



II 様式期の石器(いわき市龍門寺遺跡)



平基有茎石鏃



太型蛤刃石斧



扁平片刃石斧



柱状石斧



環状石斧



石包丁



石包丁

龍門寺遺跡出土石器

II 様式期の石器(相馬市柴迫A遺跡)



柴迫A遺跡・柴迫古墳群近景

2002 「一般国道6号バイパス遺跡発掘調査報告」IV 福島県文化財調査報告第403集より転載・加筆



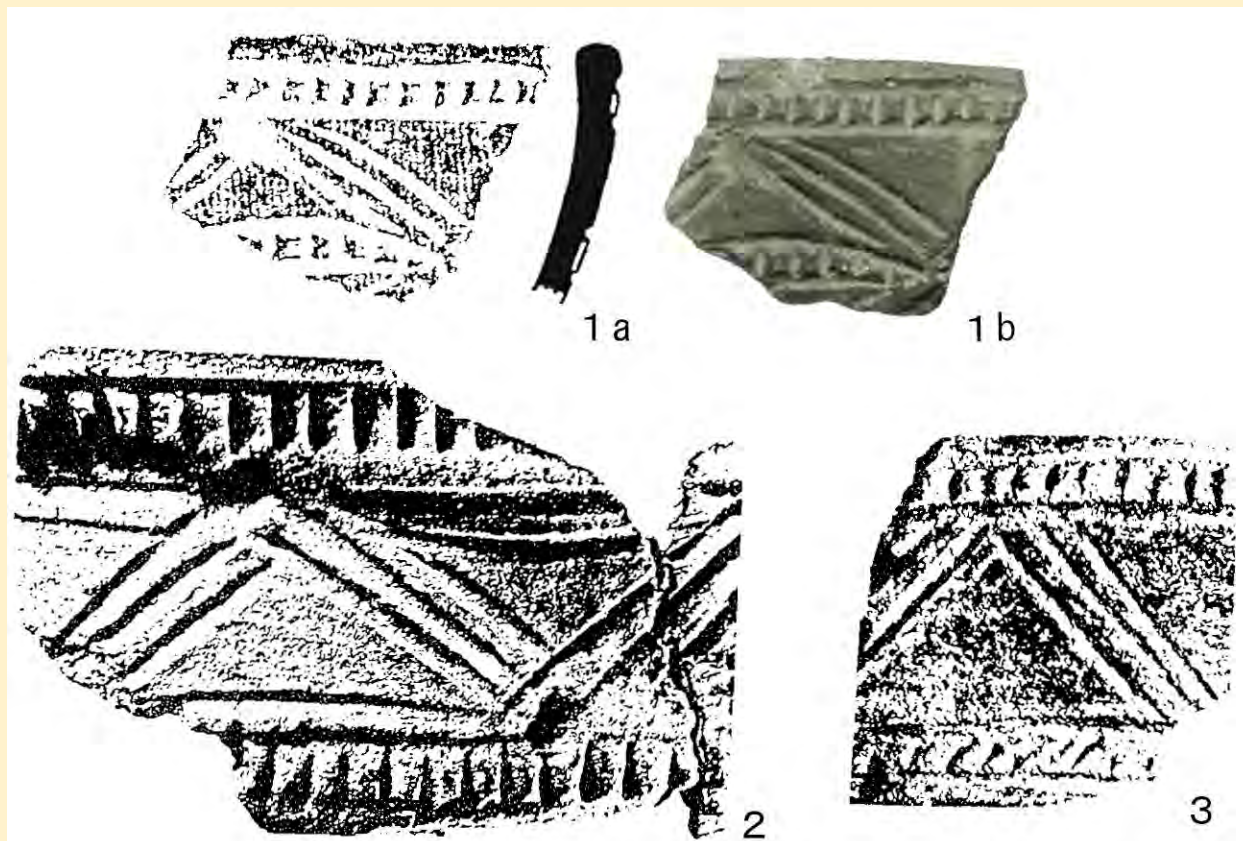
柴迫A遺跡1号溝跡7層出土遺物

2002 「一般国道6号バイパス遺跡発掘調査報告」IV 福島県文化財調査報告第403集より転載・加筆

- 1 石鏃 2 石槍 5 石包丁 6～8 直縁刃石器
9～13 両刃石斧 14・15 磨石 16 ハンマー?

なぜⅡ様式期に大陸系磨製石器が確認できるのか？

推測その1（縄文時代晩期の櫃原式土器）



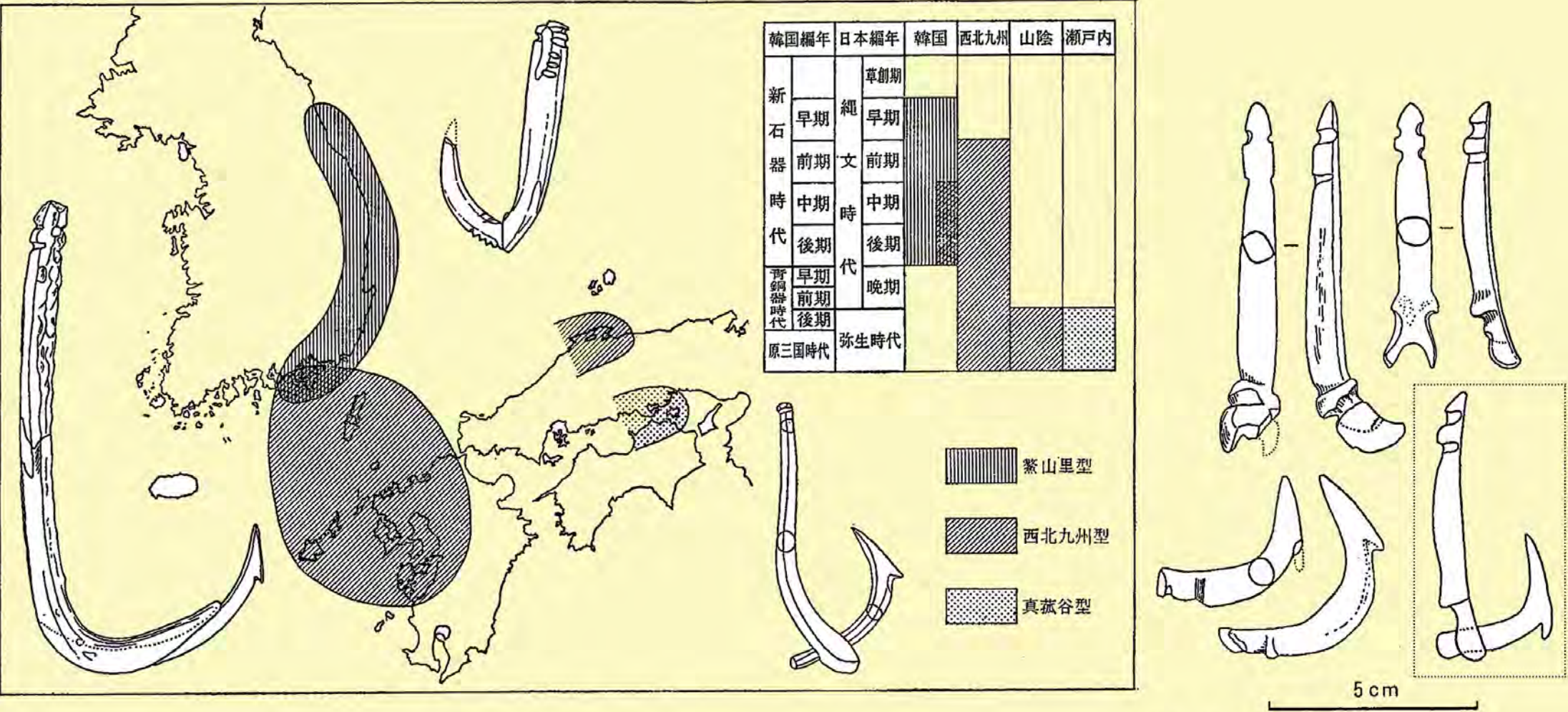
1 いわき市薄磯貝塚 2・3 奈良県櫃原遺跡

1979『考古』20号 福島県立磐城高等学校史学部より転載・加筆



1979『考古』20号 福島県立磐城高等学校史学部より転載・加筆

なぜII様式期に大陸系磨製石器が確認できるのか？ 推測その2（結合釣針）

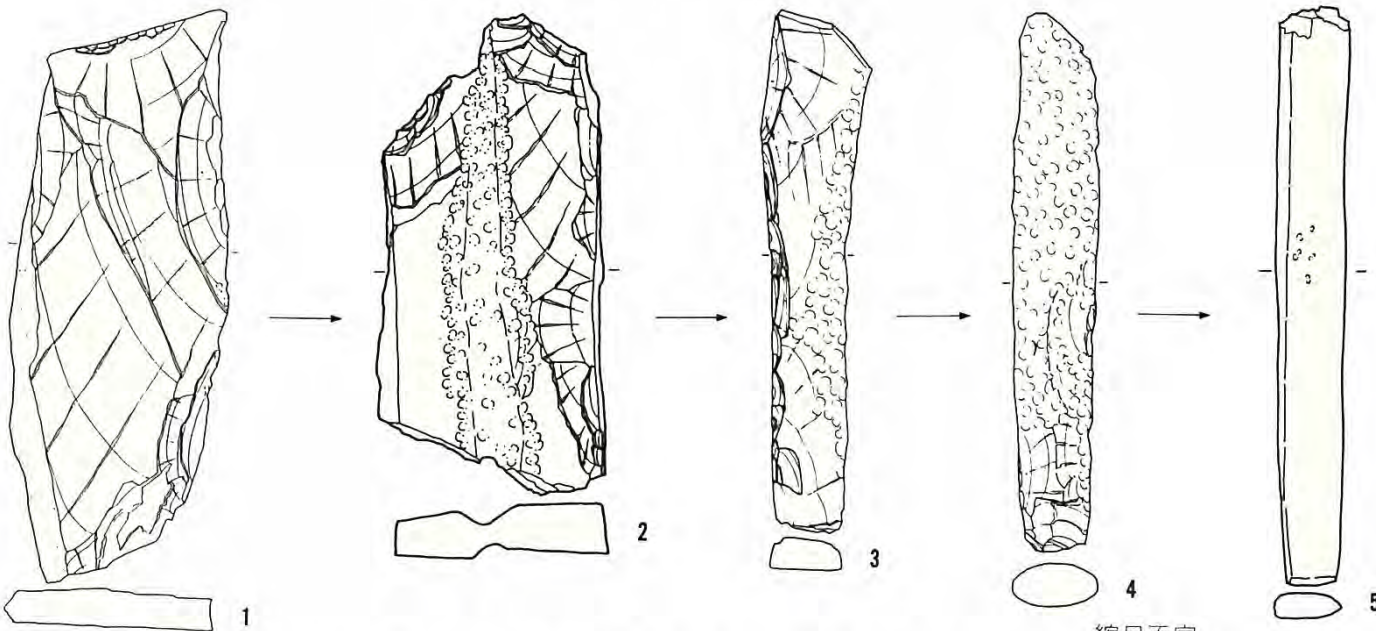


日本と韓国の結合釣針の分布と編年

いわき市寺脇貝塚出土結合釣針と
着想想定図(右下)

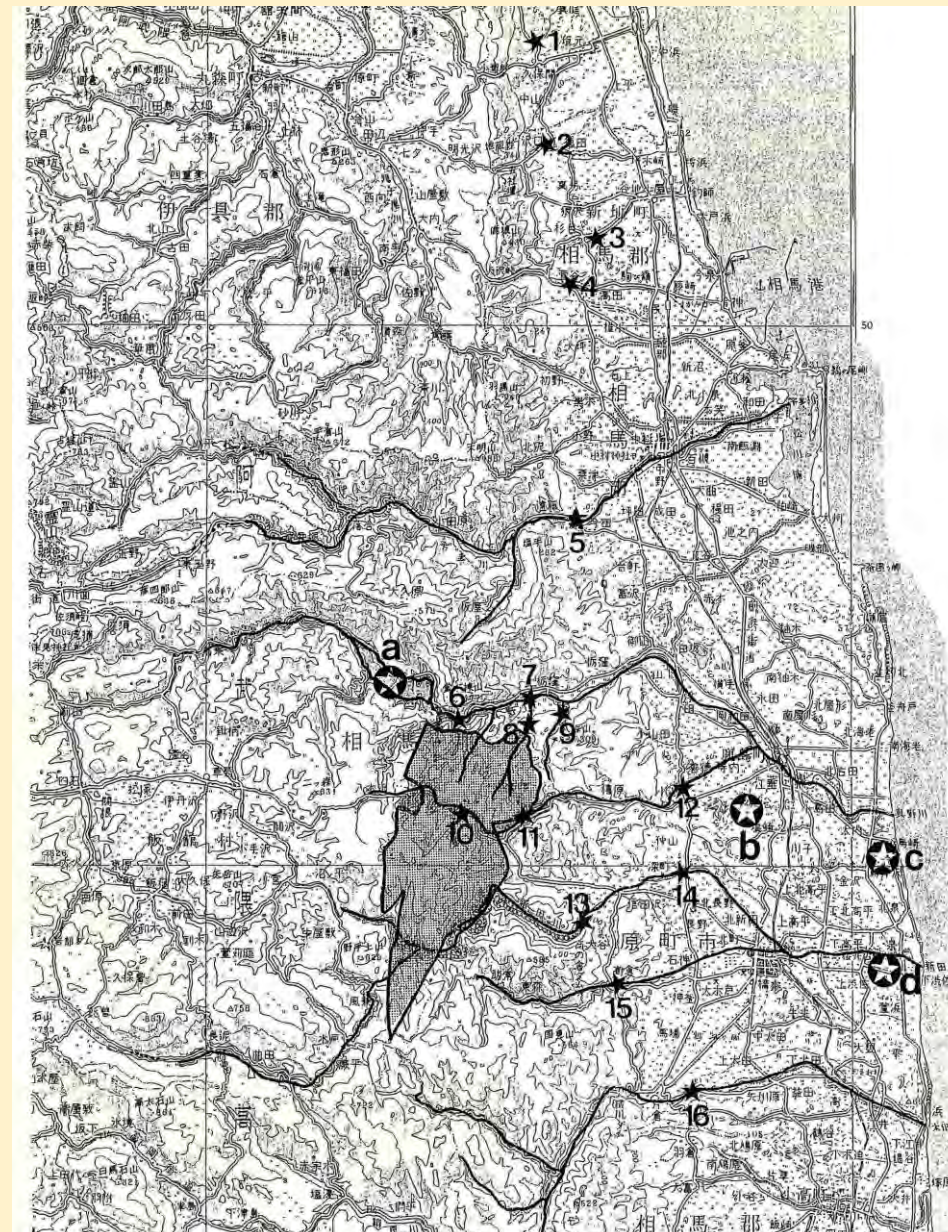
なぜⅡ様式期に 大陸系磨製石器が 確認できるのか？

推測その3
(縄文時代晩期の石器
製作と石材)



石刀・石棒製作模式図 1・5 岩下A遺跡 2 羽白C遺跡 3・4 稲荷塚B遺跡

1988「真野ダム関連遺跡発掘調査報告Ⅺ」福島県文化財調査報告書第193集より転載・加筆



相馬古生層の位置と石材調査地点 (久保 1989・柳沢 1996 より作成)

a-真野ダム関連遺跡群 b-天神沢遺跡 c-南入A遺跡 d-桜井遺跡

1: 元川 (宮城県山元町)、2: 滝川 (新地町)、3: 砂子田川 (相馬市)、4: 立田川 (相馬市)、5: 宇田川 (相馬市)、6・7: 東野川 (鹿島町)、8: 木淵川 (鹿島町)、9: 瀬ノ沢川 (鹿島町)、10~12: 上真野川 (鹿島町)、13・14: 新田川 (原町市)、15: 水無川 (原町市)、16: 太田川 (原町市)

Ⅱ 様式前半で成立する大陸系磨製石器存在への回答

西からの複数要素の伝播…縄文時代晩期前半



大陸系磨製石器の石材と
縄文時代晩期石器の石材 の“一致”

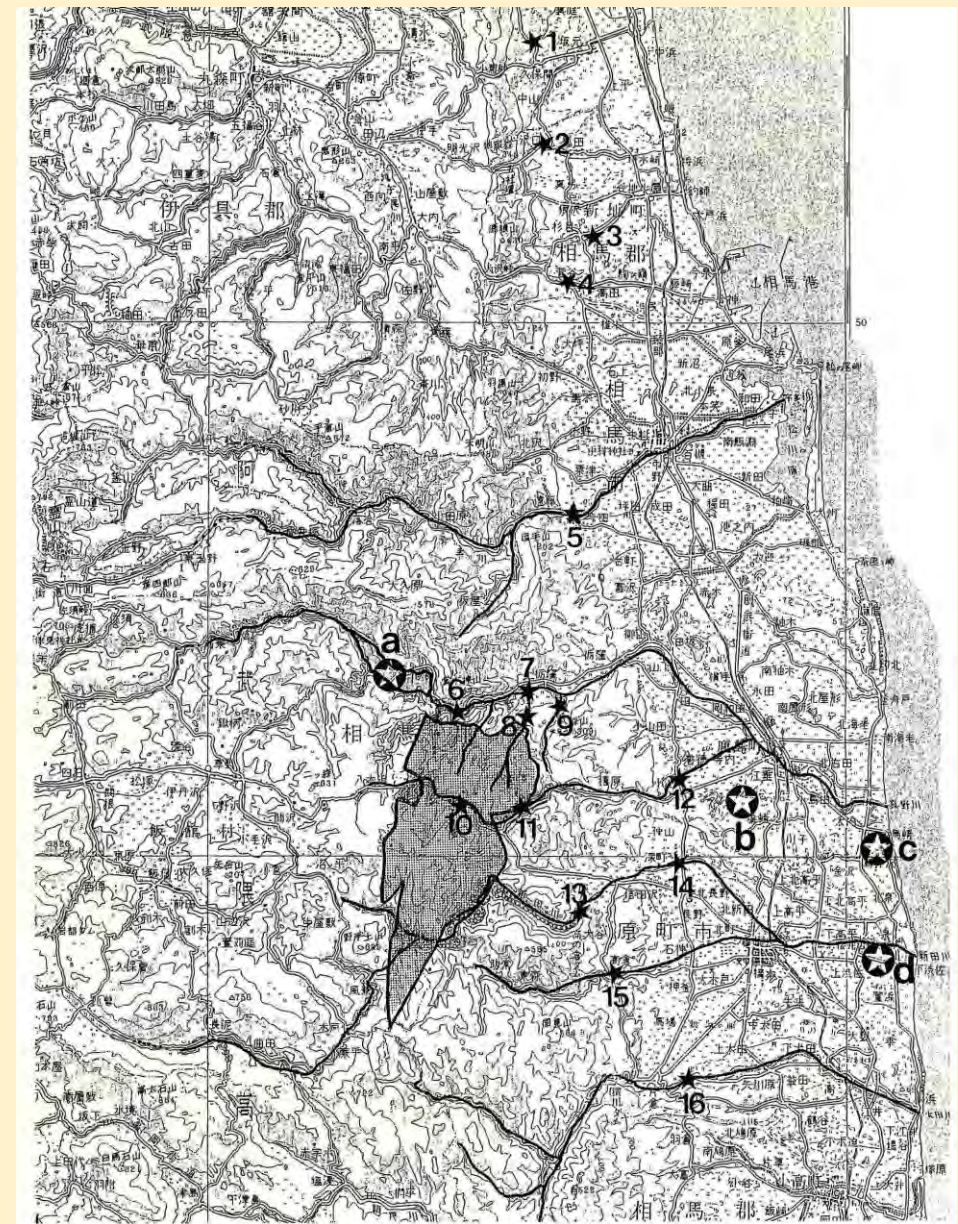


豊富な資源の粘板岩



Ⅱ 様式前半での大陸系磨製石器成立の背景

豊富な石材資源獲得の容易さと、縄文時代晩期から
続く粘板岩での石器製作技術、弥生時代になっても
同様石材で製作できる石器

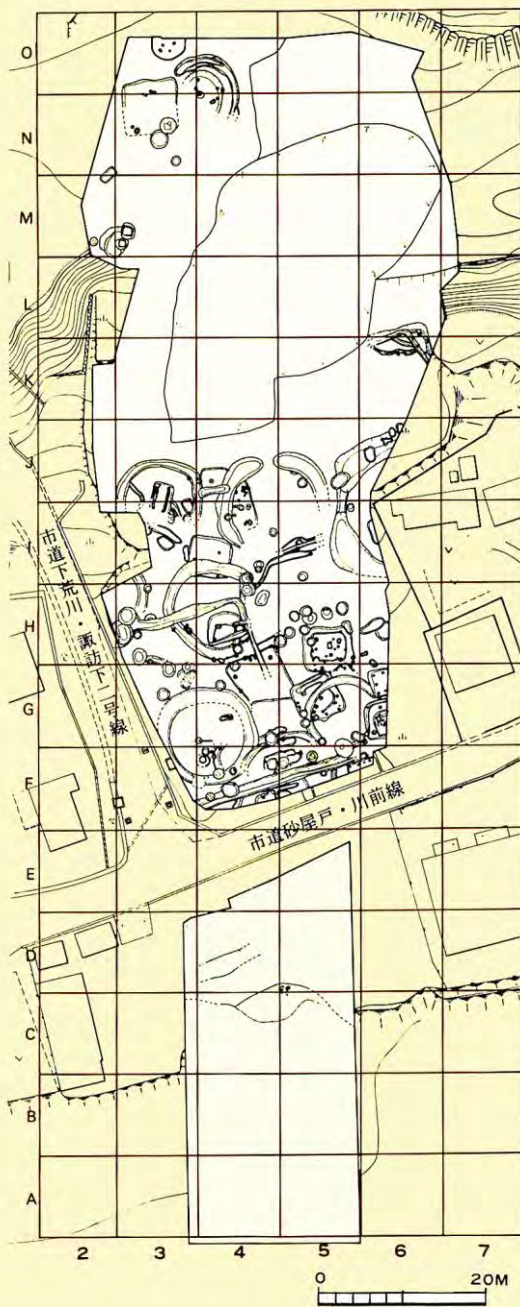


相馬古生層の位置と石材調査地点 (久保雄 1989・柳沢雄 1996 より作成)

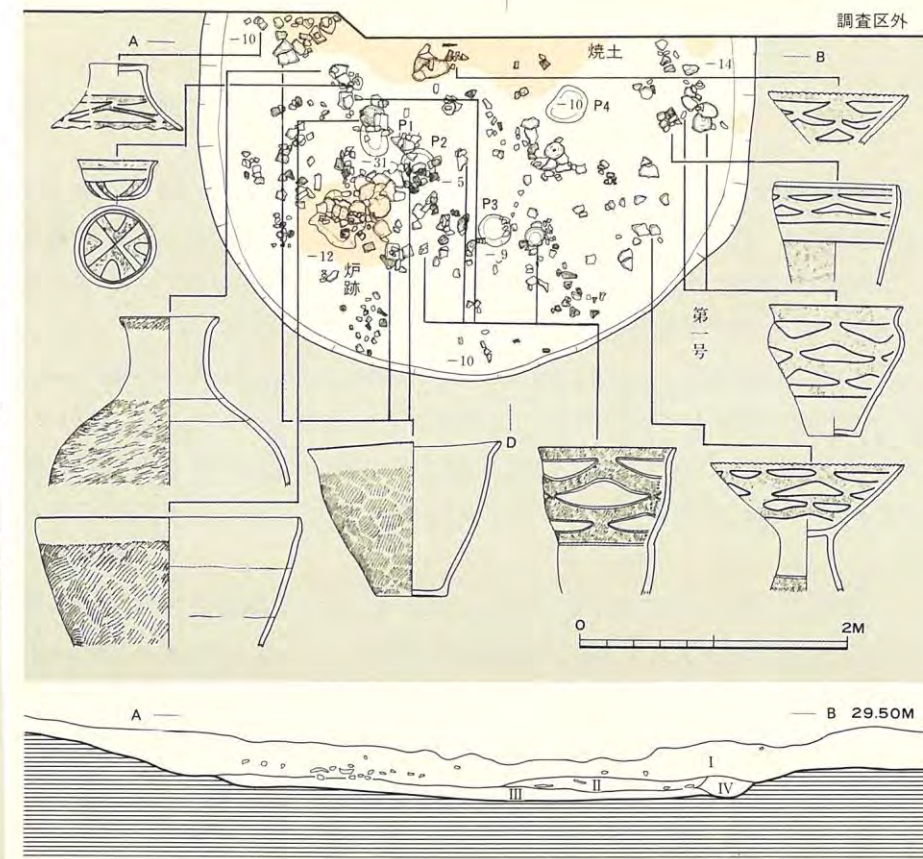
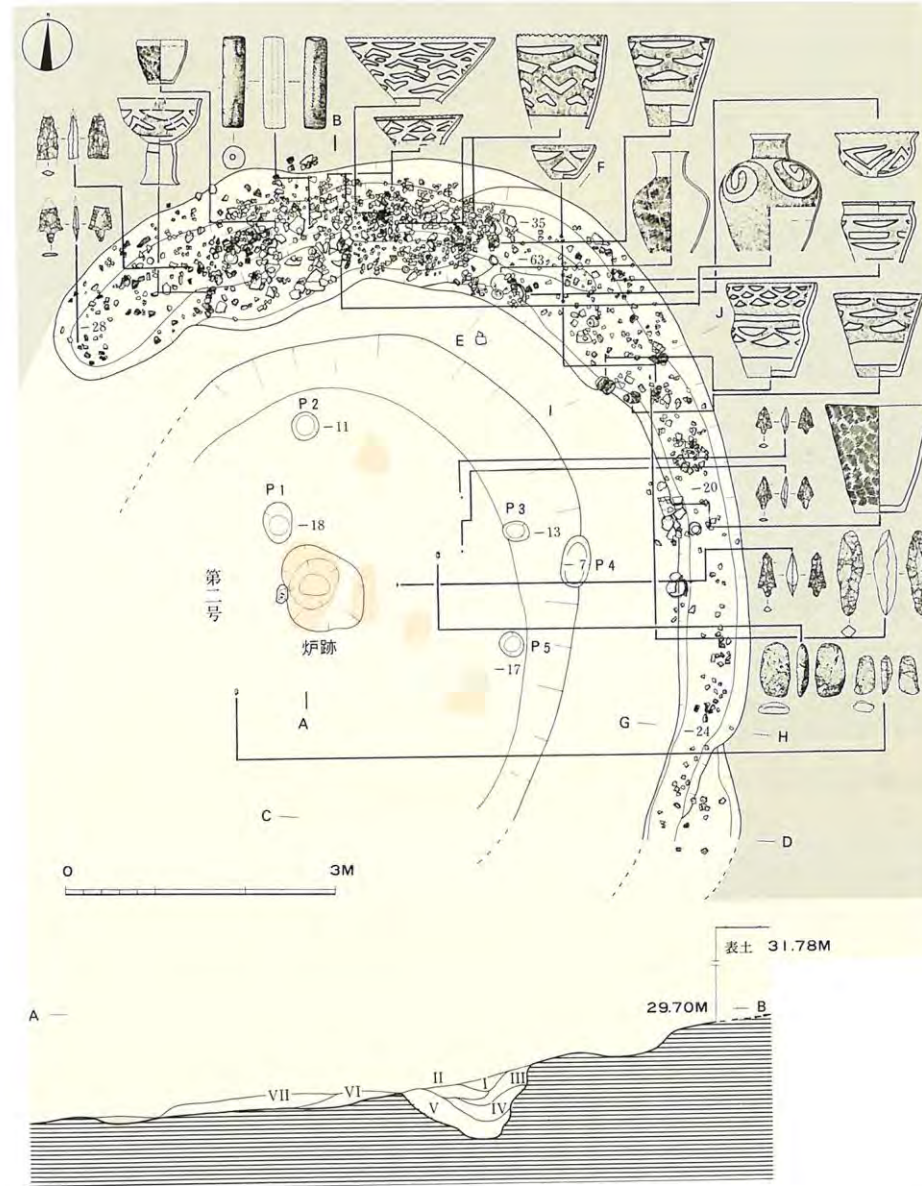
a-真野ダム関連遺跡群 b-天神沢遺跡 c-南入A遺跡 d-桜井遺跡

1: 元川 (宮城県山元町)、2: 滝川 (新地町)、3: 砂子田川 (相馬市)、4: 立田川 (相馬市)、5: 宇田川 (相馬市)、6・7: 真野川 (鹿島町)、8: 木淵川 (鹿島町)、9: 瀬ノ沢川 (鹿島町)、10-12: 上真野川 (鹿島町)、13・14: 新田川 (原町市)、15: 水無川 (原町市)、16: 太田川 (原町市)

弥生時代の両刃石斧製作（いわき市龍門寺遺跡）



龍門寺遺跡グリッド配置図



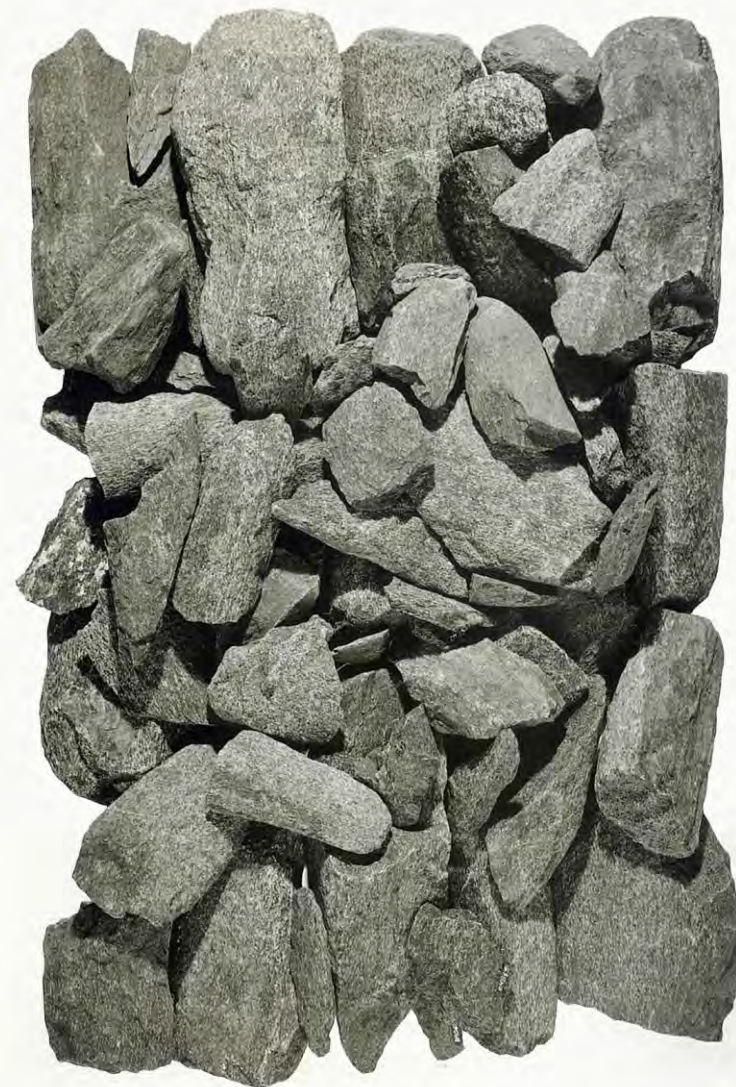
1985 「龍門寺遺跡」いわき市埋蔵文化財調査報告第11冊より転載

龍門寺遺跡の弥生時代住居跡

弥生時代両刃石斧の製作
(いわき市龍門寺遺跡)



閃緑岩製磨製石斧



閃緑岩製磨製石斧未製品・剥片

弥生時代流紋岩の石核と剥片
(いわき市龍門寺遺跡)



流紋岩石核



流紋岩剥片

弥生時代の両刃石斧（相馬市柴迫A遺跡）



相馬市柴迫A遺跡出土 特異な大型両刃石斧

その後の石器(Ⅳ様式期の石器)



南相馬市金沢地区の位置図

1994「原町火力発電所関連遺跡調査報告」Ⅳ 福島県文化財調査報告書第297集より転載・加筆



南相馬市南入A遺跡

1993 福島県立博物館「企画展 東北からの弥生文化」図録より転載・加筆

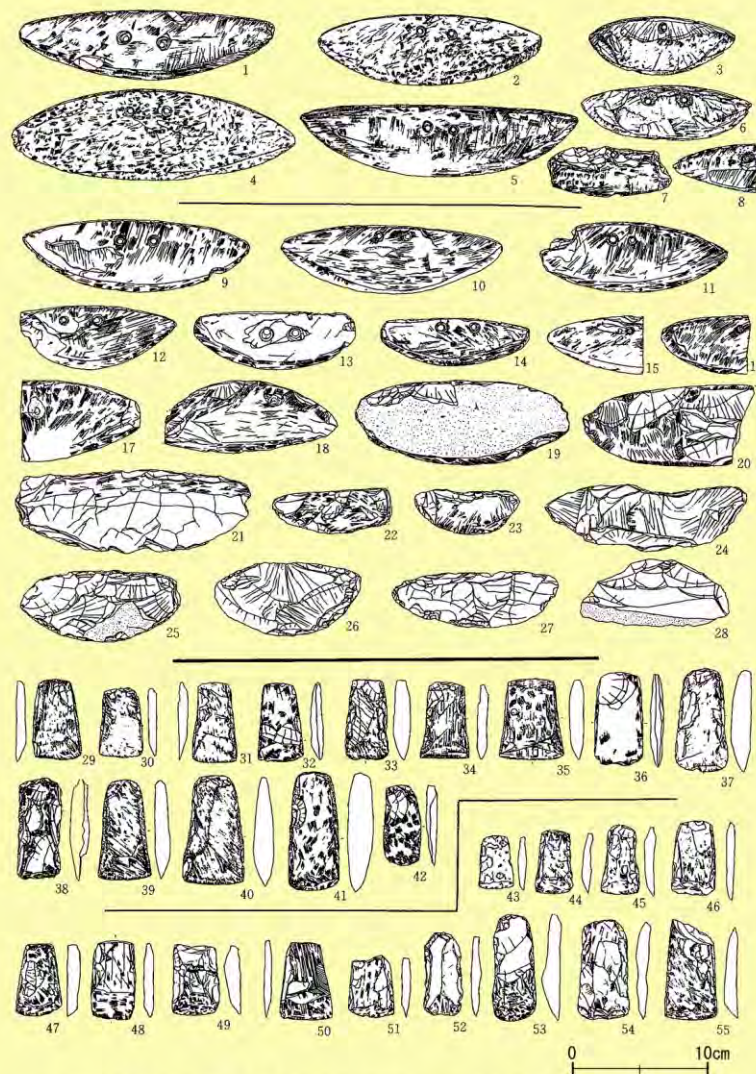
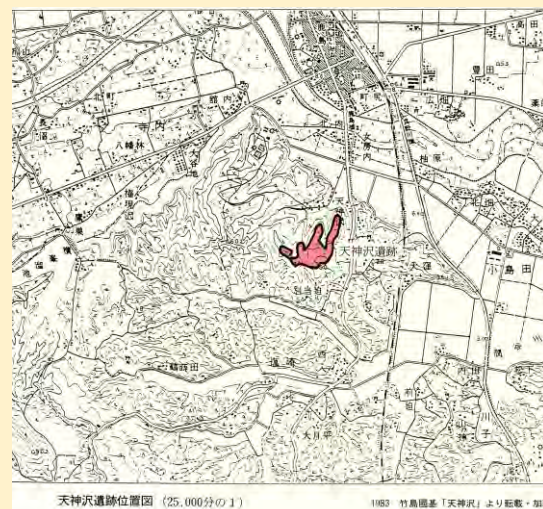


金沢地区全景(原町火力発電所本体部)

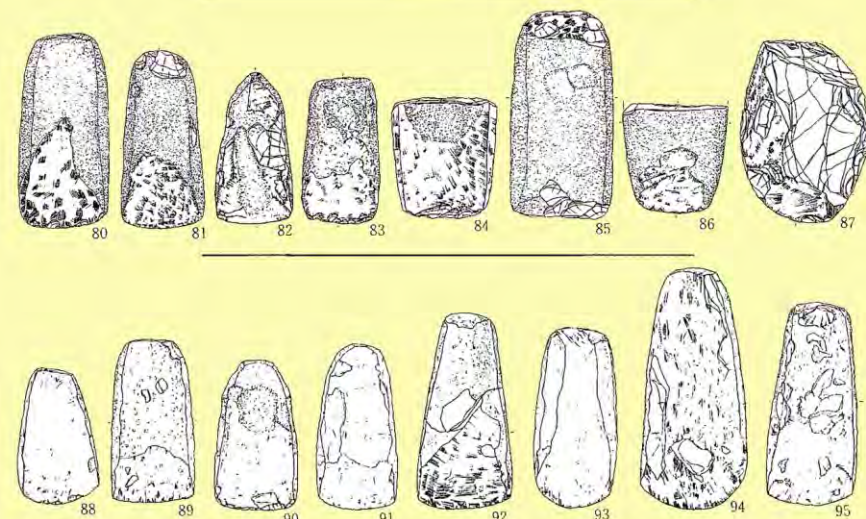
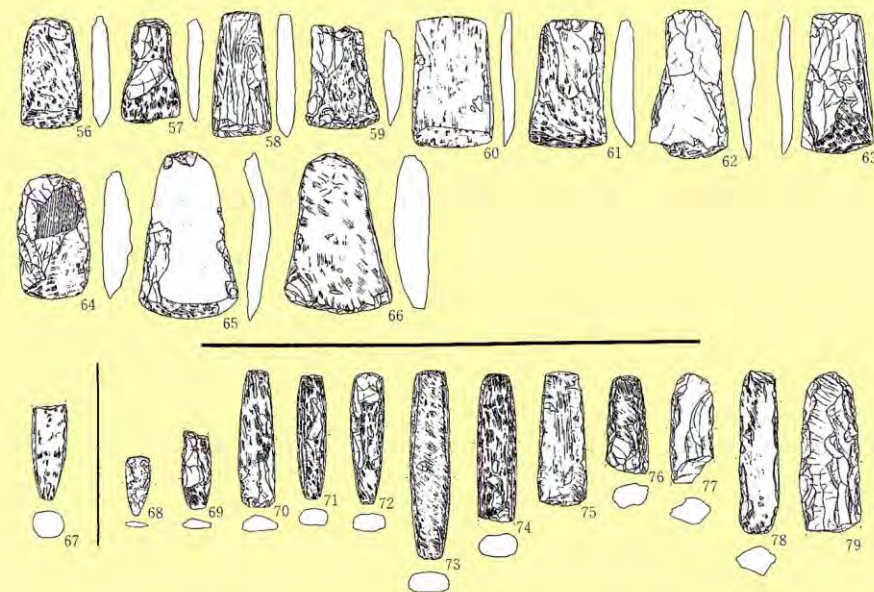
1994「原町火力発電所関連遺跡調査報告Ⅳ」福島県文化財調査報告書第297集より転載・加筆

その後の石器 (Ⅳ様式期の石器)

南相馬市
天神沢遺跡
桜井遺跡



石庖丁(1～8、桜井遺跡、9～28天神沢遺跡)、 扁平片刃石斧(29～42桜井遺跡、43～55天神沢遺跡)



扁平片刃石斧(56～66天神沢遺跡) ノミ形石斧(67桜井遺跡、68～79天神沢遺跡)

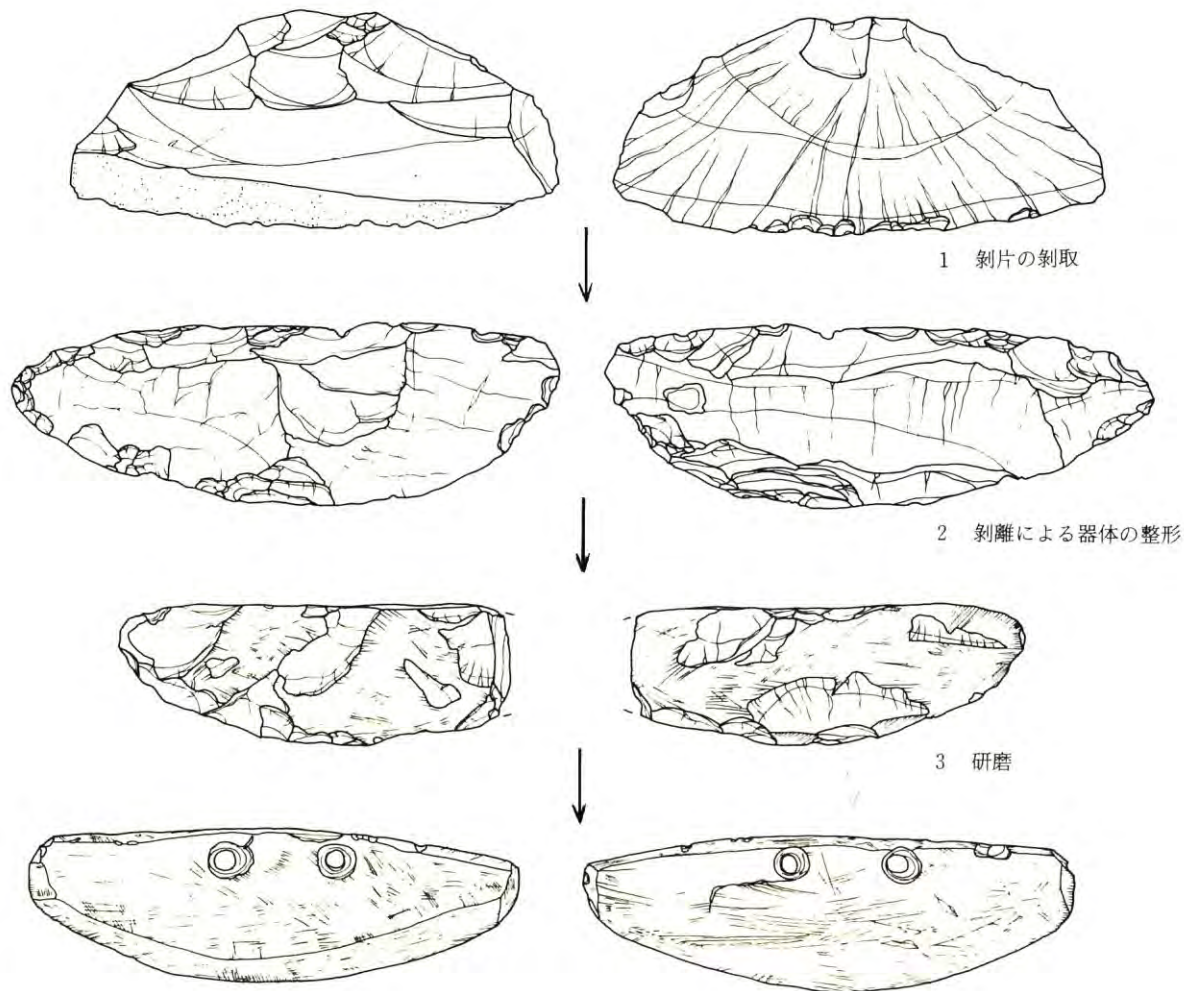
大型蛤刃石斧(80～87桜井遺跡、88～95天神沢遺跡)

桜井遺跡・天神沢遺跡の石器

1991 藤原妃敏・田中 敏「福島県浜通り地域における弥生時代石器生産の様相

一(1)鹿島町天神沢遺跡と原町市桜井遺跡採集石器群の比較一」『福島県立博物館紀要』第5号より転載・加筆

おわりに その1 石包丁製作の道具



1 剥片の剥取

2 剥離による器体の整形

3 研磨

4 研磨、穿孔



石庖丁製作工程

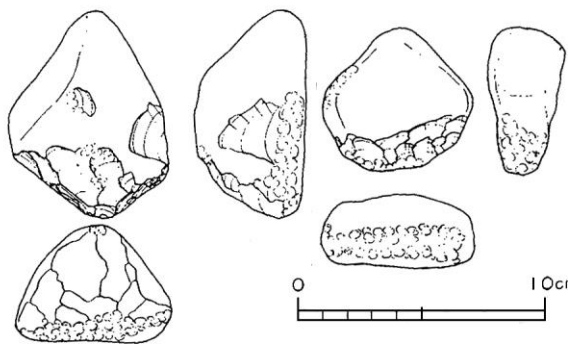
1983 竹島國基「天神沢」より転載・加筆



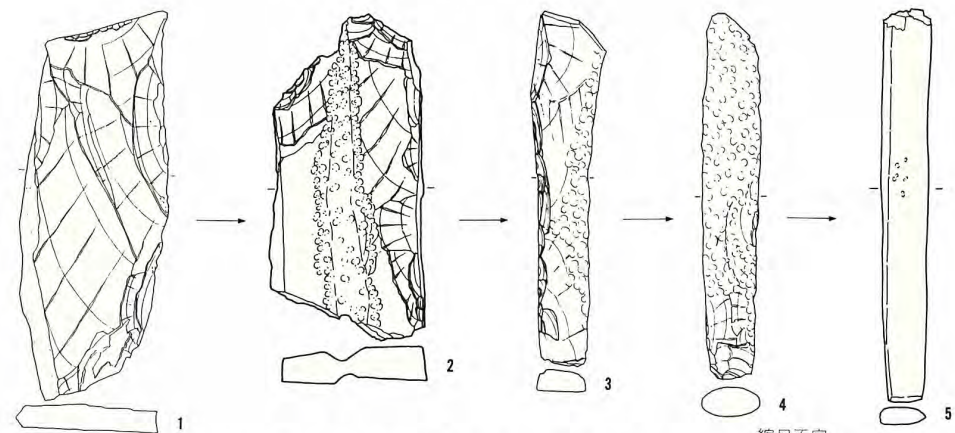
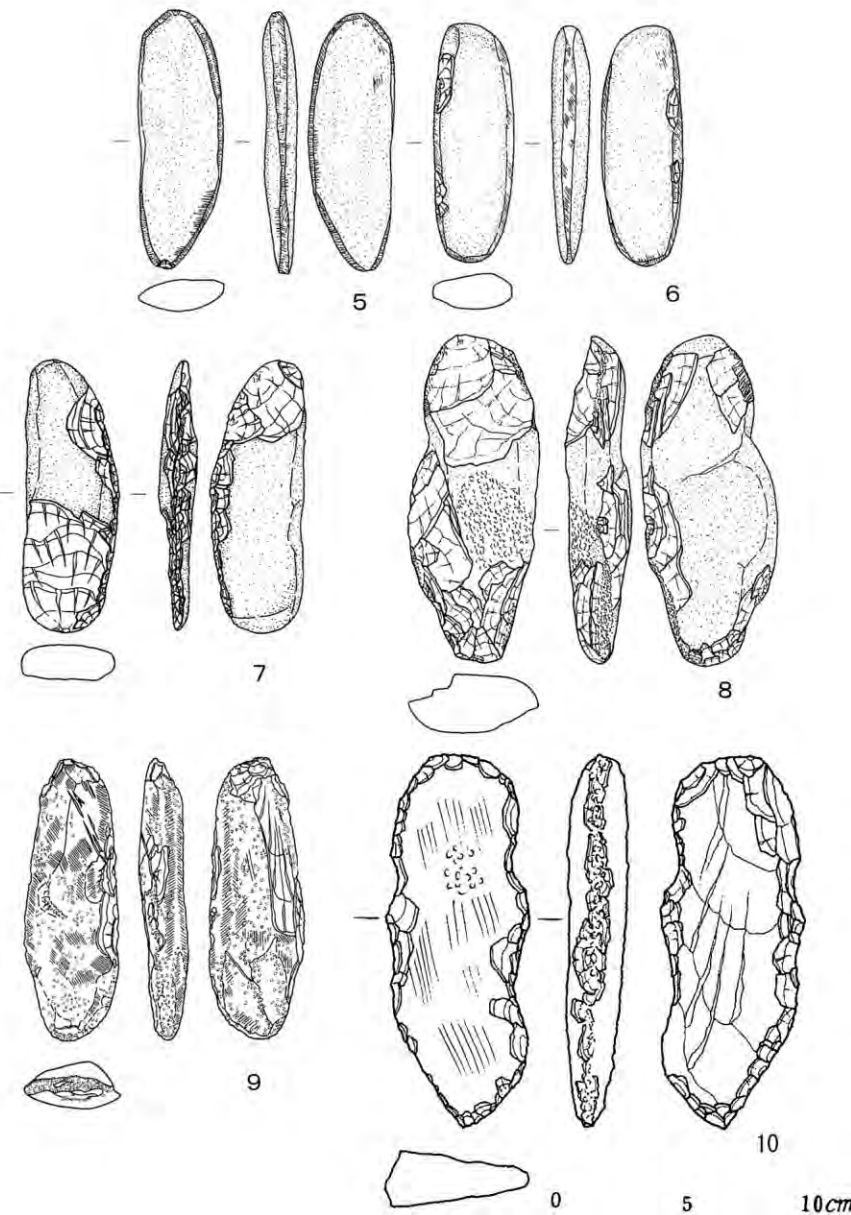
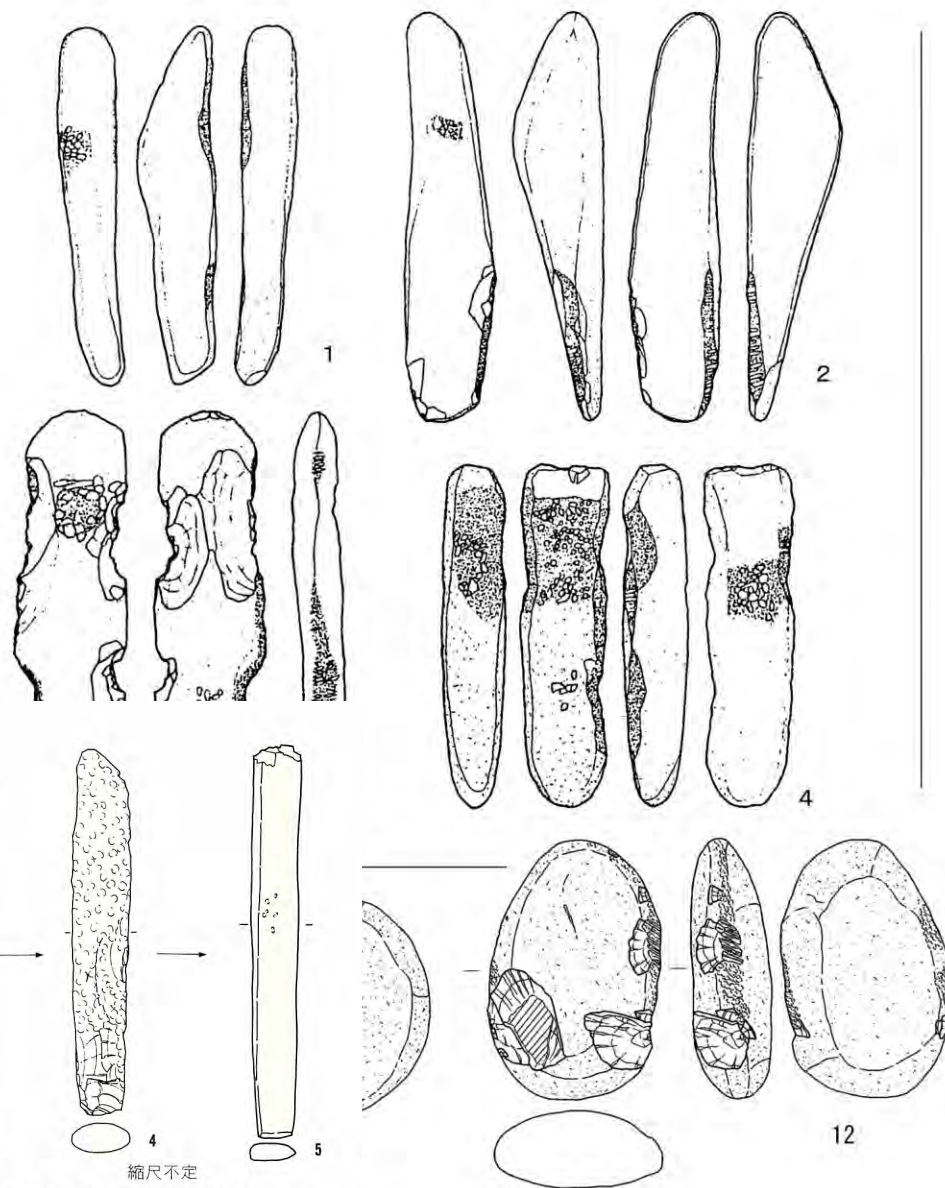
南相馬市桜井遺跡

1993 福島県立博物館「企画展 東北からの弥生文化」図録より転載・加筆

その1 石包丁製作の道具



1988「真野ダム関連遺跡発掘調査報告XI」
福島県文化財調査報告書第193集より転載・加筆



石刀・石棒製作模式図 1・5 岩下A遺跡 2 羽白C遺跡 3・4 稲荷塚B遺跡

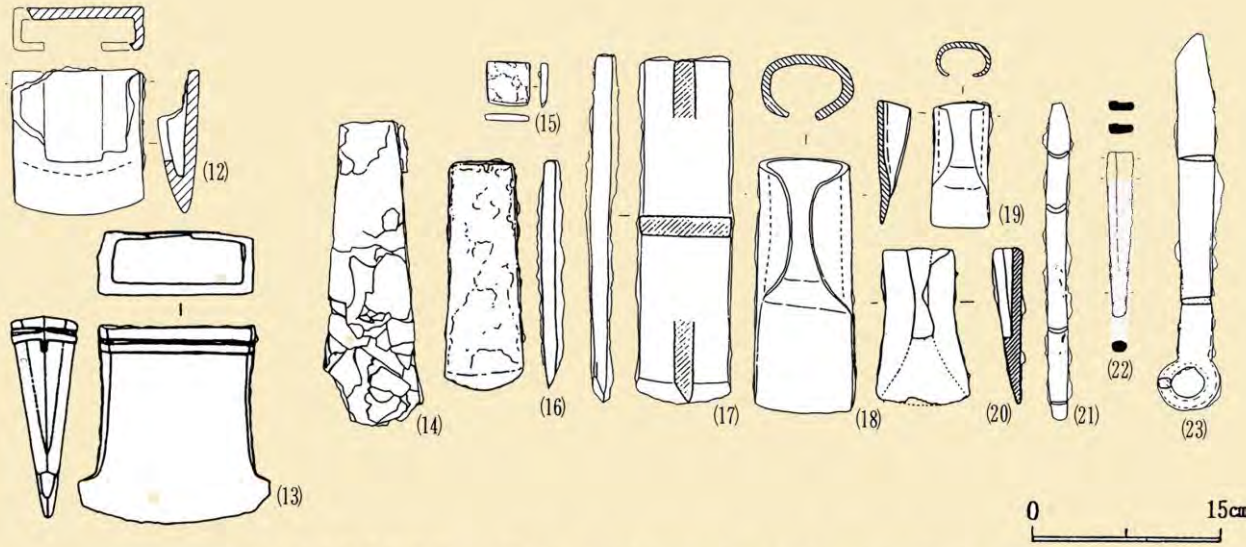
1988「真野ダム関連遺跡発掘調査報告XI」福島県文化財調査報告書第193集より転載・加筆

坂遺跡他 5～8・11・12 南相馬市 南入A・長瀬遺跡 9・10 いわき市白岩堀ノ内遺跡

1980 上村佳典「石庖丁製作における工具について—屏賀坂型敲打器について—」地域相研究第9号・

1994「原町火力発電所関連遺跡調査報告」IV福島県文化財調査報告書第297集・1997「常磐自動車道遺跡調査報告」10福島県文化財調査報告書第332集より転載・加筆

おわりに その2 鉄器化の波とふくしまの特徴



〈出土地・時期〉 (12) 福岡県下稗田…Ⅰ期末 (13) 広島県西願寺…Ⅴ期末 (14) 長崎県神ノ崎…Ⅱ・Ⅲ期
 (15) 長崎県里田原…Ⅰ・Ⅱ期 (16) 香川県烏帽子…Ⅳ期 (17) 大阪府芝谷…Ⅳ・Ⅴ期
 (18)・(19) 佐賀県千塔山…Ⅴ期 (20) 広島県真亀…Ⅴ期 (21)・(23) 福岡県栗原…Ⅴ期
 (22) 大阪府鬼虎川…Ⅱ・Ⅲ期

〈名称〉 (12)・(13) 铸造鉄斧 (14) 大形撥形板状鉄斧 (15)~(17) 加工用片刃板状鉄斧 (18)~(20) 袋状鉄斧
 (21) 鉈 (22) 鉄鑿 (23) 素環頭刀子

弥生時代の鉄器

1991「弥生文化—日本文化の源流をさぐる—」大阪府立弥生博物館より転載・加筆

関東地方以西では、弥生時代中期中頃(Ⅲ様式期)からは、新しい道具として鉄器が使用されるようになる。

しかし、「ふくしま」では一度成立した石製道具を維持していく。

周囲は次の新しい道具＝鉄器を使用していくものの、

ふくしまは旧態依然のものを固持していく。

ここにふくしま弥生人の特徴が見いだせるのではないか。

鳥取・中尾遺跡の住居跡



発掘された鉄矛。弥生時代では国内最大の全長54.3センチ。野原寛史撮影



鳥取県倉吉市教委は2日、市内の中尾遺跡で、弥生時代中期の竪穴住居跡から弥生時代では国内最大となる全長54・3センチの鉄矛が出土したと発表した。朝鮮半島で作られて持ち込まれたとみられる。板状と鑄造の鉄斧もそばで見つかった。これら3種の鉄器が同じ場所から完全な形で見つかるのは国内初。祭祀に使われた可能性があり、祭祀の形態や鉄器の流通ルート解明のための貴重な資料となる。

工業団地の整備に伴い、2019年8月に発掘調査が始まった。住居跡は約2100

弥生期最大の鉄矛

54.3センチ 鉄器の流通手がかかり

年間のものとみられ、標高約25メートルの丘陵にある。鉄矛と、朝鮮半島からの舶来とみられる大型の板状鉄斧(全長27・5センチ)が住居内の地面に突き立てられ、住居ごと燃やされた形跡があった。当時国内に製鉄技術はない。貴重な鉄器が住居から回収されていないことから、市教委は「一家を廃絶する儀礼など、何らかの祭祀で使われたのではないかとみる。鉄器を住居ごと燃やす祭祀の例はこれまで確認されていない。

権力の象徴とされる鉄矛は希少で、九州北部では有力者の墓から副葬品として十数例が確認されているが、住居跡から見つかるとは極めて珍しいという。

県中部に位置する中尾遺跡から北東約20キロにある鳥取市の沿岸部には、朝鮮半島や大陸との交流拠点だった青谷上寺地遺跡があり、今回発見されたものより小型の鉄斧が出土。中尾遺跡は、この遺跡と瀬戸内側を結ぶ中継拠点として鉄器がもたらされたとも考えられるという。

村上恭通・愛媛大教授(考古学)は「住居に火を放つ際、貴重品をささげても実現したい願いがあったのではないかと。弥生時代に行われた新しい形の祭祀を考えさせられる発見だ」と話した。

現地説明会は14日午前10時から計4回あり、定員は各20人。事前申し込みが必要で、問い合わせは倉吉市教委文化財課(0858・22・4419)。

【野原寛史、花澤茂人】